

## テーマセッション5

## テーマセッション「家族の関係性への研究的アプローチ」

## — 家族の関係性への研究的アプローチにおける可能性と困難性 —

北里大学病院

竹村 華織

東海大学医学部附属病院

新村 直子

東邦大学医学部看護学科

北野 綾

家族の関係性は、家族現象をみるうえで、私たち家族看護の実践者・研究者の一番の関心ごとだと思います。しかし、「家族の関係性とは何か？」ということには、誰もが明快に答えにくいのではないのでしょうか。

「家族の関係性」という家族現象をとらえるには、家族の機能的側面、つまりコミュニケーション、情緒的交流、相互理解、役割分担、意志決定の5つの側面を通してとらえることが可能であると考えます。その中でもコミュニケーション機能は、他の4つの機能を達成し補完する中心的な機能と位置付けることのできる重要なものです。さらに、家族の関係性は、家族成員という個人から家族成員間の相互作用から家族をとりまく社会環境との関係までのさまざまな相互作用レベルからの理解も重要です。この5つの家族の機能的側面および相互作用レベルの組み合わせだけでも、実にさまざまな「家族の関係性」が生まれます。それだけに、家族の関係性をテーマとした家族看護研究は複雑となるのではないのでしょうか。

本テーマセッションでは、家族のコミュニケーションを切り口に、二者の家族成員に焦点をあてた家族の関係性に関する研究を報告します。企画メンバーの一人が行った「喉頭がんによる喉頭摘出術によって夫が失声者となりコミュニケーションに制限が加わった夫妻の研究」をとりあげます。研究計画における研究の問い・研究デザインや分析方法の選択、また実際に研究に取り組んだ際の試行錯誤の様子などを具体的に紹介し、家族の関係性の研究におけるコミュニケーションの側面からの研究アプローチの可能性と困難性について提言したいと思います。

この提言をたたき台に、家族の関係性への研究的アプローチにおける困難性と可能性を、ご参加の皆様とともに活発に討論し、コミュニケーションからの研究アプローチだけでなく、他の側面からの研究的アプローチの可能性についても幅広い意見交換ができればと思います。

企画メンバー一同、皆様のご参加を心よりお待ちしております。お気軽にご参加下さい。